

松 陰

Show-in

26

国士館大学図書館報
2011/9/16 発行

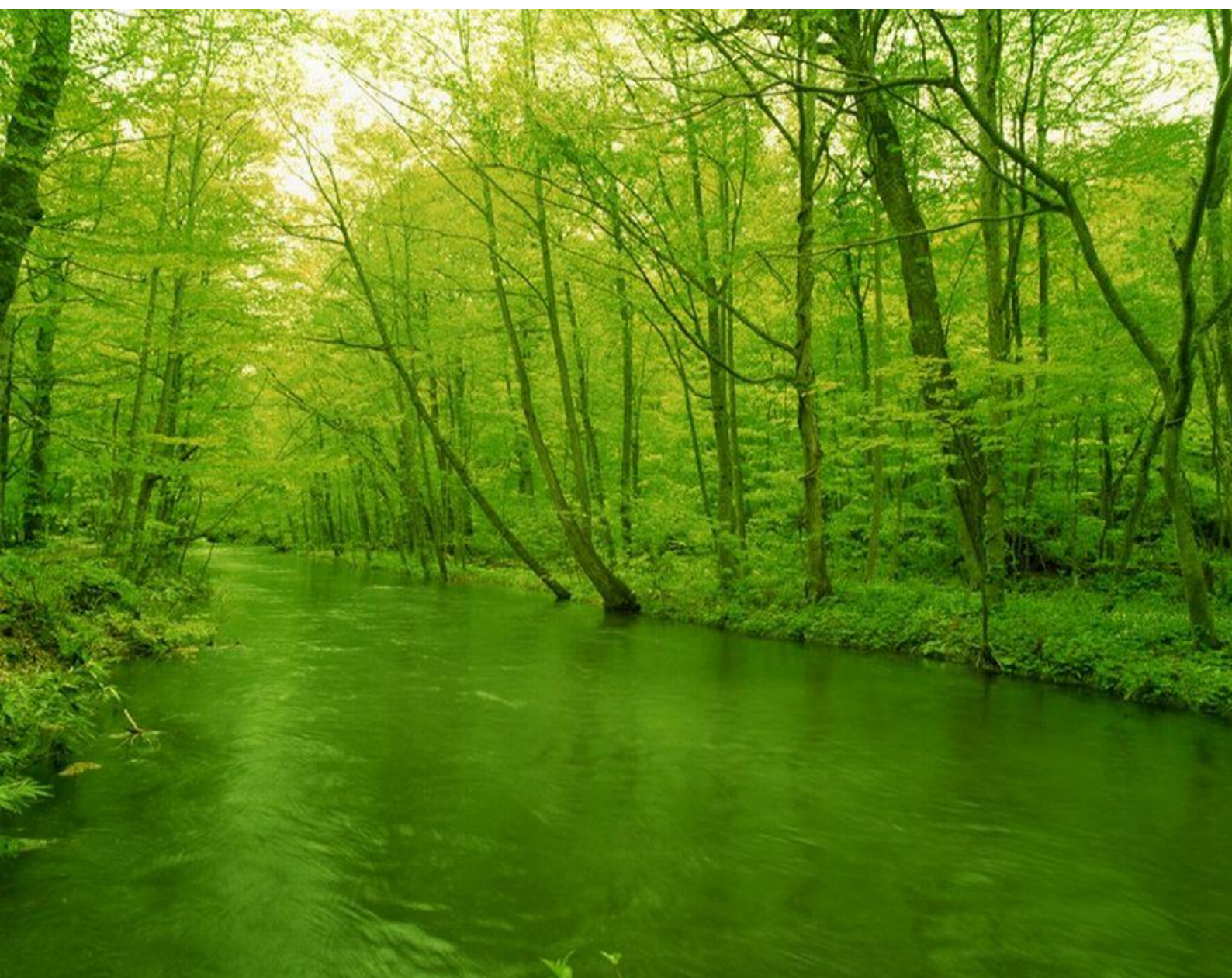
■巻頭言

メディアと図書館

清水 敏寛

■CONTENTS

- ✓ 青山有紀氏の講演会を開催しました
- ✓ 選書ツアー
- ✓ 図書館が雲に乗る！
- ✓ 図書館のおすすめ
- ✓ お知らせ・開館スケジュール



メディアと図書館

図書館長 清水 敏寛

若い時にドイツの大学に滞在したことがある。その時に、研究室以外で何事にも邪魔されずゆったりともの考えることができるお気に入りの場所が2つあった。一つは大学に隣接する小さなフランス式庭園で、もう一つは大学の図書館であった。

理工系の研究者はだれでも同じだと思うが、同じ分野の研究がどこまで進んでいるか大変気になる。少なくとも週に1回は図書館にいて、その週に届いたいくつかのジャーナルの論文に目を通す。私のいたドイツの大学でも同じ習慣があり、週に一度、学科の図書室にいてジャーナルに目を通す。気になる論文を見つけた時は、印をつけてサインをしておくと、整理して文献リストに加えてくれる。望めば後でコピーが届く。学科の図書室にない図書があると最も近い図書館を紹介してくれた。大学のキャンパスから歩いて数分のところに、その地域の中世の領主のお城があったが、その一部が大学の図書館として利用されていた。学科の図書室もお城の図書館も近代的な装備はなく、検索システムは、カード形式の古いタイプのものであったが、図書館員が図書館のことは全て熟知しているようで、様々な質問に迅速に対応してくれた。この迅速さに加えて人間的な温かみのある対応は大変心地よいものであった。図書館員がここまで専門職意識に徹底できるのは、整理好きのドイツ人の性格から来ていると当初考えていたが、後で振り返ってみると、図書館を運営している人にも利用している人にも図書館の存在意義が明確になっていることからきていることがわかった。

昨今は、情報過多の時代、情報氾濫の時代を通り越して情報爆発の時代だといわれている。これは、会話や手紙等だけが情報伝達媒体であ

った時代から、ラジオ、テレビ等のマスメディアの時代を経て、現代のようにインターネットが情報伝達媒体の時代では、一人ひとりが入手できる情報の量が、急激に増大していることを象徴的に言った言葉である。受信可能な情報量の急激な増大とともに、情報伝達媒体の多様性が従来の図書館に対するイメージを根本的に変えている。情報をさがすためにわざわざ図書館に出向く必要がないのである。カフェに座ってオンラインで仕事をすることも、論文を電子媒体で直接手に入れることも可能になった。このような時代における図書館が、私が若い時に体験してイメージしている図書館とは全く違う運用形態を用意しなければならないことは必然と思われる。

処理能力を超えた多すぎる情報は、我々にとって雑音と同じたぐいのものだ。様々な雑多な情報の中から自分に必要な情報を取捨選択して活用するためには、公平な立場から情報を整理・分類し検索可能なシステムが不可欠となっている。OPACを始めとしていろいろな検索システムが開発されている。従来は、全く別の分野に分類されていて出会うことのなかった知識を自由にリンクすることが可能になり、それが新たな発見を導くことも考えられる。

それでは、この検索システムが完成すれば図書館の機能はすべて満たされるのだろうか。もしそうなら、図書館は単なる電子書籍時代の本屋さんと同じになってしまう。研究・教育機関としての大学図書館は、単に過去の知識を整理・保管するだけではなく、新しいタイプの教育形態を提供する場所であり、また過去の知識を基に新たに真理を見つけ出すのに不可欠な場所でありたいと考えている。

(しみず としひろ＝理工学部教授)

青山有紀氏の講演会を開催しました

テーマ：「食と健康を通じて社会で生きる力を身につける！」

図書館では、7月14日（木）AVホールにて、料理家・青山有紀氏を講師に招いて図書館講演会を実施しました。青山氏は現在中目黒の「青家」と「青家のとなり」の2店舗のオーナーシェフで、またテレビ出演・雑誌の取材・CM出演と忙しく活躍されておられる中、本学図書館の学習支援にご賛同いただき快く講演を引き受けて下さいました。



当日は定員50名のところ、予想を超え60名以上の方のご来場をいただき大盛況となりました。参加された方は「青山さんのお話をお聴きし、改めて食の意味を知った気がします。そして夢を持つ喜びなど、とても刺激を受けました」と感想を述べていました。

▼講演会の様子



図書館では、図書館活動を通じて学生と日常的にコミュニケーションを図り「学生の力」を活かした図書館運営を行っています。今回の講演でも、学生サポーターを募り準備を進めてまいりました。その学生サポーターの政経学部政治学科 寺崎潤一さん、片岡旬さんから感想文が寄せられましたので、ここでご紹介いたします。

政経学部政治学科2年 寺崎 潤一

始めに、青山さんには大変お忙しいところお越しいただき、また私達の慣れないインタビューに対しても熱心に答えてくださり感謝しております。

青山さんへのインタビューを通して、青山さんから様々なことを学ばせて頂きました。特に、向上心を常に持ち続け自らを高めて行くこと、感謝の気持ちを忘れずにいつも謙虚でいることなどがありました。これらのことは、改めて学び直すことが出来たと思います。ありがとうございました。

今回私自身、初めて講演会の手伝いをさせて頂きました。参加を決めた段階では、軽い気持ちで臨んでいましたが、図書館員の職員さんをはじめ、他のサポーターとして参加している学生との打合せを経ていく中で、私の意識は日々変わっていき、講演の当日の朝には、絶対に良いものにしたと強く思うようになっていました。

講演が無事終了し、図書館スタッフの方々やサポーター学生との反省会で、皆に「良かった」と言ってもらえた時の達成感は、今まで得てきた達成感と違い、新たなものとして自分の中で確立していました。今回の講演会ではとても多くのことが吸収でき、また自分自身に何ができるかを、見つめ直すことができました。

最後に、学生サポーターとして、図書館の活動に参加できたことを心から良かったと思いました。

講演のテーマであります「食と健康を通じて社会で生きる力を身につける！」では、青山さんの生き方や、食と文化に関する事柄など、多くのことを学ぶことができました。

今回の講演会は学生によるインタビュー形式で講演を進めることになり、事前に質問の意図や構成について他の学生と話し合いを重ねた結果、良い成案ができあがりました。本番では、自分の考えや質問を伝えられるか不安でしたが、リハーサルを積み重ねることで、何とか役割を果たせたかと思います。

この経験により、自分の考えを伝えると同時に、相手の立場や感情にも配慮する点が、何よりも重要だということがわかりました。

▼講演会の様子



▼講演会開催のポスター



★今回の講演会では、5名の学生サポーターの皆さんにご協力願ひ無事終了することができました。政経学部3年 西沢ひかりさん、2年 寺崎潤一さん、1年 片岡旬さん、文学部1年 森美幸さん、1年 道口摩耶さん、ありがとうございました。

図書館では、これからも学生が積極的に図書館運営に参加できるような態勢を整えていきたいと考えております。学生サポーターは随時募集していますので、参加してみたい方・話を聞いてみたい方はお気軽に図書館までご連絡下さい。

(第1司書課 古川清子)

第8回選書ツアーを実施しました！

2011年6月18日（土）に図書館恒例行事の選書ツアー（通算第8回目）をジュンク堂書店・新宿店にて実施しました。今回も参加希望者が多く、早い段階で募集定員に達してしまうほどでした。

ツアー前日に行われました事前説明会（学生座談会）では、参加学生による活発な意見交換があり、選書ツアーに対する思い、好きな作家・著書の紹介や推薦の言葉、さらには図書館への要望等が出ました。短時間でしたが大いに盛り上がり、終了するのが惜しく感じる会となりました。

ツアー当日、学生バイヤーは、広い店内を疲れも見せず、楽しそうに、また真剣な眼差しで、専攻する分野の専門書からベストセラー書籍などを選書しました。今回は、他の学生にも読んでもらいたいと思う本を選んだバイヤーが、多く見受けられました。また、図書館の蔵書を事前にチェックしてツアーに臨んだ学生も多かったようです。終了後も、選書ツアー参加者間で情報交換するなど、学部・学年の垣根を越えた交流も行われていました。



●参加者によるツアーアンケート結果（抜粋）

設問：選書ツアーについて何で知りましたか？

| | | |
|------------|-----|------|
| 図書館ホームページ | 1名 | 7% |
| 図書館内のポスター | 12名 | 86% |
| 学部等掲示板ポスター | 0名 | 0% |
| 友人からの薦め | 0名 | 0% |
| 教職員からの薦め | 1名 | 7% |
| その他 | 0名 | 0% |
| 合計 | 14名 | 100% |

*図書館内のポスターが、図書館をよく利用している「本好き」の学生の目に留まったようです。また、数字には現れておりませんが、学部等の掲示板への募集ポスターの掲示や教職員からの薦めも、学生の背中を一押ししていると考えられます。教職員各位のご協力に感謝申し上げます。

●学生バイヤー選書図書リスト（抜粋）

「日本男児」長友佑都
 「入社1年目の教科書」岩瀬大輔
 「彼女について」よしもとばなな
 「黒い季節」沖方丁
 「アメリカなう。」小国綾子
 「あの戦争と日本人」半藤一利
 「よくわかる薬理学の基本としくみ」當瀬規嗣
 etc.



★今回の学生バイヤーによる選書図書は、中央図書館、鶴川図書館の新着図書コーナー等に展示しています。皆様のご利用をお待ちしています！（第1司書課 郡司博之）

図書館が雲に乗る！

クラウド化、つまり雲に乗ると？

ついに、本学の図書館管理システム、OPAC、学術リポジトリ「kiss」がクラウド上で動き出す。つまり、図書館の ICT 環境がすべてパブリッククラウド化 (SaaS) して利用者サービスを展開する世界初の大学となる。試練の秋である。

利用者にとって、学内だけでなく自宅や本屋さんなど街中であって、いま読みたいと思った本の所蔵状況が直ちに分かる。「図書館にあるからこの本買わなくていい！」あるいは、「図書館に無いから直ぐ購入希望を出しておこう。」「あの本屋さんに注文しよう。」など、OPAC が生活に密着する。或る日、街中談議が始まった。その話題について過去に自分で纏めた雑記帳や、関連の記事などを思いだし、スマートフォンから「kiss」検索し提示して見せる。もう、どこもがラーニングコモンズになる瞬間であり、真のユビキタスの到来である。そして、自館以外にもサービスが受けられ、情報社会の色々なシーンに容易に参画できる可能性が広がることもある。

これまでの歩み

当館は、私学新聞などでお馴染みの「統合学習環境」という図書館整備コンセプトを 2001 年に樹てた。いわゆる、大学内の何処かで出来ることなら、図書館でもそれが出来る環境に機能統合しようという概念である。このため、レファレンサーに学習カウンセリングやレポート作成を始めとする多様なコンテンツ制作支援スキルまでも課した。必要なソフトをプリインストールした端末を増やすだけでなく、画像、オーディオ、ムービー等の編集専用端末も配備し、ネット・ライブ発信やデモンストレーション環境としても使える AV ホールを設置した。多彩な目的を持つ、本来の消費者指向サービス体制の具現である。

「kiss」は生来のマルチメディア電腦庫であ

る。e ラーニング教材までもが文書と同じ簡便さで扱えるよう、Google が 2006 年実現したユニバーサルサーチや、同 2008 年に実現したフォルダー登録などの機能を 2003 年から既に実装していた。ただ、クロスサーチでの世界初の「多元横断検索」機能は、図書館の単館サービスから集合館サービスへの進化、館や大学の価値化などで多くの利点を持つ高度技術だが、システム運用コストなどの壁が高く、導入機関が Dspace 陣営に流れるなどで実証されていない。時代が追いつかなかった、と言うべきかも知れない。

単館から集合館サービスへの変革

クラウド化した場合、従前システムの 5 分の 1 程度のコストで運用できる試算だ。つまり OPAC を導入している機関なら、その運用コスト以下の予算で OPAC とリポジトリシステム両方の運用が可能になる上、学内からサーバーが消えるので、保守要員も設置スペースも電気代も要らない。金銭的・精神的負担が極度に低減できる。このメリットによって、大学だけでなく研究機関、企業などでエンタープライズデータベースとして普及する可能性が広がった。普及の秘訣は、個人や地方市町村の小規模機関でも参加しやすい、月 1 万～数十万円という運用価格体系を実現させることにある。

機関向けには、その全構成員のパーソナルリポジトリ構築も保障されている。また、機関も個人も、必要な情報源 (サイト) を選び、そこに連なる機関のみを対象に関係情報だけを横断検索できる。同時にそのカテゴリーは、検索時に変えられるので意識せず情報の動的な体系が自動的に編成され、芋ずる式に検索できる。しかも、Google のクロールや Dspace のハーベストなどのように検索対象となるメタデータを日常的に収集する作業がないので、検索の際に公開時との遅延がない。世界のどこかでいつ公開

された情報でも即時に検索できるのである。もし、多くの学校が、教材や教材部品をそれぞれの先生方に自校のリポジトリに投稿させたなら、こども達は絶えず各学校を検索し時々刻々と増える新しい教材で学ぶ楽しさを体験できるだろう。そこには「分からない!」を極減させる可能性や、公平・平等な自律学習機会が見えてくる。それは紛れなく、社会とのアンマッチで崩壊しつつある教育や各種格差を打開する可能性である。

集合館で個々の図書館を補完

図書館の利用者数はこの十数年間で2割以上低減している。一人当たりの本の貸し出し数も、平均的には半減に近い。理由には、情報の多様化・膨張に追従できないことによる図書館依存の減退があると考えられる。変化が早く、知るべき事が多すぎる社会になっては、従前の図書館では不満なのだ。米国スタンフォード大では、自分のノートに加え本や資料をスキャンしてデジタル化し（eBookにも）、ウェブや学内外の各種データベースからダウンロードした種々のドキュメントを精選し必要な“部分”を纏め、大学の印刷局へ持ち込んで一冊に簡易製本することが流行っているという。このことを“エスプレッソ”と言っている。

本学のパーソナル kiss は、図らずもエスプレッソをデジタルで日常的に行えるツールでもあった。このパーソナル kiss の利用は、これまで自分でダウンロードして PC にインストールする必要があった。これの面倒もあって、全学構成員の1割程度のユーザにしか利用されていないのが実情だ。しかし、クラウド化によって、その機関の全 ID 保持者に、パーソナル kiss が自動的に用意される。しかも、機関リポジトリ同様に多ファイルやフォルダー登録、複数の参考資料添付も可能な上、自分の興味・専門に最適な横断検索先サイトが複数設定出来る（専門特化）。パーソナル kiss から、公開利用が可能な機関リポジトリへ、ワンクリックで投稿もできる。公開コンテンツはアクセスやダウンロー

ド毎に料金決済ができる機能まで実装した。新しいビジネスモデルとして、コンテンツ生産人材の育成にも期待できる。

情報の持つ本来のエネルギーを引き出す

「おらん家の土蔵から見つかった古地図をナ、役場に持って行って町のリポジトリって奴に載せたらヨ、なんと！えれ～歴史資料だってんで学者さんが押し寄せ、役場がてんでこ舞いだってよー。驚いたべー。」なんてロマンも生まれるかも知れない。

各種の図書館が時代に追いついていないことは、総務庁の eJapan、続く×ICT 構想などから連綿と類推できる。世の流れに参画できた形跡も少ない。情報の収集や学習支援サービスだけでなく、“エスプレッソ”のような作業効率や知的生産性向上、創造性を助ける為の工夫、ビジネス支援など複合サービスは不可欠だ。

クラウド化が大学図書館にもたらす最大のメリットは、質的量的時間的に「図書館を補完」することである。これは、効率や生産性向上の為の脳力拡張、学習・教育支援、ビジネス支援を実質化する方向に働く情報エネルギーを掘り起こす「図書館力」の条件整備に他ならない。

本学の教育が、こうした大学図書館の存在を前提に、学生の一生涯という時間軸の中で組み立てられ、それによってキャリアがデザインされるなら、これほど「面倒見の良い大学」はないだろう。

クラウド化に秘めた本学関係方々の思いや、関連する多くのベンダースタッフの並々ならぬご尽力と、学内大方のご理解に対し心から感謝申し上げます。

2011.09.02

附属図書館事務部長

植田 英範

図書館からのおすすめ

●図書館長推薦!!●

「養老孟司のく逆さメガネ」(新書)

養老孟司著

解剖学の第一人者である著者は、世の中の常識が傾きつつある現代、「逆さメガネ」で本当の姿を見直す視点を持つことを述べられ、その見方、考え方のヒントを示されています。

中央図書館、鶴川図書館、多摩図書館

●第1 司書課長推薦!!●

「ハーバード白熱授業」(映像資料・DVD)

マイケル・サンデル教授

あの、サンデル教授の「白熱授業」が映像化!

請求記号 DVD||311.1

中央図書館、鶴川図書館

●講演会講師青山有紀氏著書●

「青山有紀の幸せ和食レシピ 大切な人に元気をあげたい」

料理家 青山有紀著

7月14日に図書館で講演された料理家青山有紀さんの著書です。

薬膳など青山さんの考案された体に優しく元気が出る料理のレシピが盛り沢山。必見です!!

中央図書館、鶴川図書館、多摩図書館

●選書ツアー学生バイヤー推薦!!●

「日本人が誤解しやすい英語生活マナーブック」

ジェームス・M・バーダマン著

日本人が知らなかった英語圏のルールを掲載しています。

海外旅行などに行くときに役立てる事が出来たらいいな
と思い選びました。

中央図書館、鶴川図書館

●選書ツアー学生バイヤー推薦!!●

「ドキュメント太平洋戦争全史 戦場体験者 300人取材・作戦解説 47図収録」

亀井 宏著

太平洋戦争の流れについて非常に分かりやすく書かれているので、
もし少しでも興味があったら読んでおいて損は無いと思います。

請求記号 210.75||Ka 34

中央図書館

「クトゥルー神話全書」

リン・カーター著、朝松健監訳、竹岡啓訳

秋の夜長のナイトメアー!

コズミックホラーの第一人者ラヴクラフトと
クトゥルー神話の研究書です。

請求記号 930.278||L 94 C

中央図書館



お知らせ

※夏期休暇貸出返却日は 9 月 27 日(火)です。お忘れなく！



開館スケジュール (9～10 月)

- ・9 月 14 日(水)から通常開館
- ・9 月 19 日(月) 大学授業日のため開館
- ・9 月 22 日(木) 大学臨時休業(9 月 19 日の振替)のため休館
- ・10 月 10 日(月) 大学授業日のため開館
- ・10 月 11 日(火) 大学臨時休業(10 月 10 日の振替)のため休館

※変更になることがございますので最新の情報は図書館ホームページをご確認ください。

編集後記

今年の夏はいかがでしたか。節電ということで図書館の中も暑かったですね。利用者の皆様にはご迷惑をおかけ致しました。暑さも一段落、少しずつ涼しさも感じられるようになってきましたので、どんどん図書館に足を運んでください。思わぬ出会いが待っているかも...。選書ツアーで選書した図書などおもしろいものが入っていますよ。(Y.S)